

テレビ離れに関する研究

ー若者のテレビ離れー

氏名 平井啓吾

要旨本文

1 はじめに

本論文は、若者のテレビ離れについて研究したものである。若者がテレビ離れをすることで何が問題なのかについて分析を行った。

スマートフォンが普及し、一人一台が当たり前となった現代、若者のテレビに対する関心はどのようになっているのかについて研究をしたいと考えた。テレビ離れをしている若者は、どのようにしてニュースや出来事を把握しているのだろうか。テレビを視聴しなくなり、社会時事に疎くなることが問題なのではないかと筆者は考える。

若者のテレビ離れの原因の背景には、スマートフォンの普及が影響しているのではないかと考える。たとえば、Netflix といった配信登録制のストーリーミングサービスで、インターネットに接続されたデバイスを使ってドラマや映画を視聴できるサービスが普及し、スマートフォン一つあればどこでも自由に配信を視聴できる時代になった。つまり、動画サブスクリプションの影響があることがいえよう。

先行研究でも、鈴木 2012 は、テレビ離れの原因は複数存在するとしている。具体的には、若者のライフスタイルが変化し、インターネットやゲームをする時間が増え、なおかつテレビ番組等にも魅力がわからない等が原因としてあげられるとしている。

2 仮説

筆者は上記のような問題意識から、若者のテレビ離れについて調査し、大きく以下の仮説を設定した。

仮説 1：動画サブスクリプションの影響があるのではないかと。

仮説 2：テレビを視聴しなくなり、時事疎くなっているのではないかと。

3 結果の概要

調査は 2023 年 7 月 21 日より、9 月 29 日までの間、Google Foam を送信するかたちで行い、回答数 40 であった。まず回答者の属性であるが、学生 87.5% (35 人) であり、社会人 12.5% (5 人) であった。

調査結果から抜粋して、有意水準となった結果について述べていく。まず、一人暮らしか否かとニュースを観る媒体・影響について、調査対象が一人暮らしか実

家暮らしであるかによって、ニュースを視聴する媒体（インターネットかテレビ）が異なるか、から見ていこう。自分一人と、同居人がいるとで、はたしてニュースをみる媒体は異なるのであろうか。筆者としては一人暮らしの方が、インターネットによりニュースを見る割合が高く、実家の方がテレビで視聴する割合が高いと予想する。なぜなら、一人暮らしの家には、必ずしもテレビがあると限らないため、ニュースはインターネット観ることになり、逆に実家にはほとんどの家庭にテレビがあり、ニュースを観るときは常にテレビを利用すると考えたからである。

結果は、実家に住んでいる者も一人暮らしの者も、インターネットでニュースを見る割合が高いという結果になった。

次に、有意な結果になったものは、調査対象が一人暮らしか実家暮らしかによって、回答者が動画サブスクリプションの影響でテレビを視聴する時間が減ったか否かについてである。Netflix等のいわゆる動画サブスクリプションの影響でニュース（テレビ）を視聴する時間は異なるものなのか。また、一人暮らしか実家暮らしによって視聴の時間はどうか。筆者としては、一人暮らしの人の方が、動画サブスクリプションの影響を受け、テレビを視聴する時間が減ったという回答の方が多いのではないかと予想する。なぜならば、一人暮らしの方が、テレビを視聴する時間より、自分の時間が多く、スマートフォンを操作する時間の方が多いのではないかと考えたからである。また、テレビで放送されたドラマやバラエティ番組などもスマートフォン、(Netflix等)の動画サブスクリプションで視聴することが可能なため、その影響を受けて、一人暮らしの人の方がテレビを見る時間は次第に減ってくるのではないだろうか。

結果としては、予想通りの結果となり、一人暮らしの86.2%は動画サブスクリプションの影響を受けテレビを視聴する時間は減ったという結果となった。

次に、ニュースを観る媒体と影響について述べていく。

調査対象がニュースを視聴する媒体が（インターネットかテレビ）によって、回答者が動画サブスクリプションの影響でテレビを視聴する時間が減ったか否かについてだが、Netflix等の動画サブスクリプションの影響でニュース（テレビ）を視聴する時間は異なるものなのか。また、動画サブスクリプションの影響を受けるものなのか。筆者としては、インターネットでニュースを視聴する人の方が動画サブスクリプションの影響を受け、テレビを視聴する時間が減ったという回答の方が多いのではないかと予想する。なぜならば、テレビが家にあろうとも、スマートフォンばかり見ていて、ニュース番組やバラエティ番組などをスマートフォン（インターネット）で視聴する時間の方が多ければ、その影響を受けて、テレビを見る時間は次第に減ってくるのではないかと考えるからである。

結果としては、テレビでニュースを視聴する人の62.5%は動画サブスクリプションの影響でテレビを観る時間は減ったという結果となり、インターネットでニュースを視聴する人の80.6%も動画サブスクリプションの影響でテレビを視聴する時間は減ったという結果となった。

4 結論

今回の調査で、若者のテレビ離れは進んでいることがわかった。その背景には、スマートフォンの普及により、テレビよりもスマートフォンを使用していることがわかった。このことからニュースはインターネットで観る時代になっていると言えるのではないだろうか。ニュースを視聴しなくなり、危機感を感じている若者もなかにはいたが、「そのうち耳にひる」など、関心がない若者も少なくはなかった。

では、動画サブスクリプションの影響でテレビを視聴する時間が減り、だからといってニュースを意図的に視聴するわけでもないということは、調査対象は時事に疎くなったと感じているのであろうか。これについては、ニュースを観る媒体がテレビ・インターネットであろうとも、疎くなったと思っているという回答が多いことがわかった。以上を踏まえた上で、時事に疎くなったか否かを調査するために、日本・アメリカ・中国の政治上の最高指導者の名前を問う質問を出題した。テレビでニュースを観る人の方が回答率は高いと予想していたが、インターネットでニュース観る人の方が、回答率が高いという結果になったことが予想外の結果となった。つまり、ニュースをテレビで視聴している人のほうが正解率は低く、インターネットでニュースを視聴している人の方が正解率は高いという結果となった。この結果には驚きである。必ずしも、ニュースをテレビで視聴している人が時事に疎くないというわけではないということになる。

とはいえ、ニュースをテレビで視聴している人もネットフェイクニュースを信じてしまったことはあるという結果についても驚きであった。

今回の調査では年齢とテレビ視聴時間は Netflix 等に関係はないことがわかった。そして、意外とインターネットでニュース視聴する人の方が、必ずしも時事に疎いとは思っていないことがわかった。テレビを見ていない人の理由として動画サブスクリプションの影響があることがわかったが、ニュースは YouTube 等で視聴しているから時事問題に正解できたのかもしれない。

最後に、一人暮らしの人ほど動画サブスクリプションの影響でテレビを観る時間が減っているため、若年層にとってニュースは、テレビではなくインターネットで観る時代になってきているのかもしれないのではないだろうか。インターネットといっても、ネットの記事だけをただ読むのではなく、YouTube に掲載されているニュースの動画など、SNS 等で記事を目にすることでテレビの必要性を感じなくなっているのかもしれない。今回の調査で若者がテレビ離れになる原因であったのは、Netflix や YouTube 等の動画サブスクリプションの影響であることがわかった。